

# 国字問題研究会 ニューヌ

1993年秋季号 1993年10月1日発行

題字 見城慶和

発行 国字問題研究会 4ページ100円 年間4回発行

郵便振替 東京2-166934

「教える漢字が多すぎて、国語の時間は、漢字指導だけになってしまっている。宿題に出さないと、こなしていけない」

「子どもも、ふーふーしている。などの声が、どこでも平気でいえるようになっていきます。昨年からのことしの特徴的なことです。以前は、国語研究会などで、研究会が終わってからひかえ目に

「たいへんだ。たいへんだ。」といわれている程度でした。こんなにいわれたのでは、文部省も身にこたえていられないでしょう。

どこでも、だれでもが、こういうことをいうようになったのとあわせて、「わたしは、こうしている。」「こんなふう

にやった。」という話もよく出されるようになってきました。このことは、「漢字が多すぎるのだからしょうがない、とにかく自分なりの工夫でやるよりほかない」

さやなみ

あいさつになっている

「教える漢字が多すぎる」

という開きなおりです。子どもに対しての責任をはたさなければならぬという一心での。

けれどもこのように話す人＝聞く人たちは、これでよいと思っているわけではないのです。「これじゃ満足できない、もっとよい方法はないものか」と思っています。

国字問題研究会

は、発足して十五年。

全国アカデミ

ーは九回してきま

した。そこで漢字

教育の基本提案を

提起してきました。

田村利樹

この基本提案が、いま、現場の先生方のひとつの研究資料となっています。アカデミーでもまとめて入手された方がいます。研究会講師で話いき、紹介しますと、かなり購読者が出ます。

国字研は、この基本提案を改訂して、さらに総合的なものを作っていく予定です。どうぞ、例会にご参加ください。

一九九三年度 第九回漢字指導法研究会全国アカデミー報告

国字研委員長 田村利樹

でアカデミー報告は四回目。

一九九三年度、夏季アカデミーは、八月二日（日）東京都教育会館（神楽坂エミール）で開かれた。

一九九三年度、夏季アカデミーは、八月二日（日）東京都教育会館（神楽坂エミール）で開かれた。午後は、小学校低学年、中学年、高学年、中学校・高校に分かれての分科会。

午前中は漢字教育の基本提案と、モモセ チヒロ氏（元国語審議会委員、元朝日新聞社用語課長、現カナモジカイ理事長）の講演。氏の話ぶりはやわからかでおだやかだったが、その内容はたいへん鋭いものであった。ことばの発生と文字の問題であった。小・中学生に消化できない漢字を文部省が押しつけていることに対しては、憲法違反である

案と、モモセ チヒロ氏（元国語審議会委員、元朝日新聞社用語課長、現カナモジカイ理事長）の講演。氏の話ぶりはやわからかでおだやかだったが、その内容はたいへん鋭いものであった。ことばの発生と文字の問題であった。小・中学生に消化できない漢字を文部省が押しつけていることに対しては、憲法違反である

小学校低学年

紺屋富夫氏と内田文子氏の報告。

らがな一字一字の指導、漢字一字の指導を実践したままに報告されていて、指導要領のカリキュラムがいかに内容が過多であるかを証明していました。

紺屋氏の報告は、過去九回にわたる報告・研究をまとめたもので、これだけで『漢字教育Ⅱ低学年』として一冊の著書にふさわしい資料をもとにおこなわれました。

小学校高学年

内田文子氏は、国字研会員度、アカデミーに参加し、その報告を国分寺市でし、研究をつみかさねてきました。ひ

小学校中学年

乗木養一氏の報告。今年度

乗木養一氏の報告。今年度

田村操氏の報告。田村氏は国字研会員ではありませんが国字研方式の話を二時間ほど

聞いて、新年度からすぐに実践に取り入れました。

(国字研方式は、別にむずかしいものではないことが、このことからわかりました。)

今年度で二回目の報告です。

田村氏のつぎの指摘は指導者側の反省をせまるものとなっております。

### 漢字指導で

- ① たくさん書かせることが指導だとおもっていないか。
- ② 市販テストにたよっていないか。
- ③ 教科書の字体を絶対だと思っていないか。
- ④ 日記や作文で漢字を強制していないか。

実践は漢字学習のリズムを

児童が身につける必要があるとして、月・火・水曜日は新

出漢字について一セット五過程の家庭学習、木曜日は予習してきたノートをもとに漢字

の指導、金曜日は朝自習でテスト問題作成、土曜日は朝自

習でテストとしています。このやり方は中学校でもとりい

れられます。とにかくたいへんななかで、子どもに必要な漢字をどう定着させるか、き

めのこまかい指導がされています。

### 中学校・高校分科会

三宅研太郎氏、見城慶和氏  
篠田栄子氏の報告でした。

見城氏は「夜間中学校における『生活基本漢字』の指導

でした。生活基本漢字の考え

漢字を精選していくときに役立つ資料です。この生活基本

漢字を用いて「自主教材」を作成されています。十四の項目に分けてのもので、生徒が

生活に必要な場面を考えたものです。

三宅氏(中学校)・篠田氏(高校)の報告は、当日の報告レジュメが手元にならないので

省略いたします。

ただ、アンケートでは、レポート三本は多すぎる、実践報告を聞きたかったと声がありました。

(この実践報告とは、夜間中学校は、見城氏がありません。見城氏がありません。ふつうの中学からのという意味です。)

### 今年度の取り組みと参加者

今年度はなるべくひとりひとりにアカデミーを知らせていくという方針でチラシをていねいにつくりました。チラシに国字研が目ざしていることと教育漢字過多の指摘をのせました。報告者は、過去どんな研究をしてきたかも紹介しました。立場を明確にしたわけです。ひとりひとりに知らせることは、東京都内の全小中学校国語主任にチラシを郵送しました。また、東京都内の約六〇〇〇人の教職員ひとりひとりにチラシを渡してもらいました。

その結果、七〇名の参加を得ました。会費が三〇〇〇円、交通費や昼食代を含めるとかなりの額になります。

### 【4ページにつづく】

### 【3ページからのつづき】

参加者の熱意にこたえらるるアカデミーであったかどうか。

学習指導要領見直しの決議をした自治体が全国で百をこえました。その学習指導要領見直しで、例として出されるのが、教育漢字の過多です。国字研の責任を感じます。

でも、全体的に分析してみますと、国字研十五年の歩みは着実に進んでいます。アカデミー報告（漢字教育の基本提案、分科会報告レジュメ）にそれが実体となって見えています。

来年度に向けて、さらに前進したいと考え、学習、実践に入りました。

### 映画の紹介

# 学校

●監督／山田洋次

●出演／西田敏行、竹下景子

渥美清、田中邦衛

国字研前委員長の見城慶和さんは、教師になってから現在までの三十年以上を、東京の下町の夜間中学校で活躍されています。荒川では、児童言語研究会に所属し夜間中学における一読総合法の実践をつみかさねました。その一端は『一読総合法入門』（明治図書）にしめされています。また、都教組荒川支部のなかまとともに国語教育における「批判読み」を提唱しました。

国字研前委員長の見城慶和さんは、教師になってから現在までの三十年以上を、東京の下町の夜間中学校で活躍されています。荒川では、児童言語研究会に所属し夜間中学における一読総合法の実践をつみかさねました。その一端は『一読総合法入門』（明治図書）にしめされています。また、都教組荒川支部のなかまとともに国語教育における「批判読み」を提唱しました。

### 学ぶことと教えること

### 喜びと人間の〈幸福〉を見つめる秀作

この見城さんの実践を二十年ちかくにわたって、見つめてきました。見城さんと生徒とのふれあいのなかに、教えること、学ぶことによる喜び、人間にとってほんとうのしあわせとは何かを見いだしてきました。

その実践レポートを日教組全国教研に提出しました。現在は小松川二中でさまざまな境遇の生徒たちとの交流をふか

だが、この見城さんのしごとと、夜間中学の現場をえがくことでした。

リアリティを重視する山田監督は、周到な取材をつづけたそうです。念には念をいれたスタジオの茶の間のセットには見城さんの自宅から国語関係をはじめとした蔵書をもちこみ撮影したそうです。主演の西田敏行さん、竹下景子さんは撮影前に小松川二中をおとずれ実際に教壇にも立つという熱の入れようだったそうです。

十一月六日より全国松竹系一斉ロードショー。

★国字研例会のご案内★  
10月30日（土） 3時  
神楽坂エミール